



議員フォーラム所属議員秘書と JR産業の課題を共有

9月1日、東京都内において、JR連合は「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する国会議員の秘書を対象とした勉強会を開催した。九州から選出された国会議員の秘書も多く参加し、JR九州労組からは、吉田春菜政策部長が出席した。

勉強会の前半には、JR連合からJR産業全体に共通する課題として石川敏也産業政策局長が「持続可能な地域公共交通をつくるために」「高速鉄道・新幹線ネットワークの構築と計画推進」「JR各社の離職・人財不足の課題」等についての説明を行った。後半は、国会議員の選出エリアごとに分かれて、エリアごとの政策担当者から各エリアの現状や課題について説明を行い、意見交換を行った。九州エリアでは、各線区のご利用状況や線区別の収支、自然災害において現在も不通となっている肥薩線の課題や勉強会の数日前に復旧した日田彦山線のひこぼしラインについての説明等を行った。


今後も関係議員との連携を密にし、情報共有をしっかりと行える関係を築き、JR九州労組の政策実現のための基盤を整備していく。



◀ 21世紀の鉄道を考える議員フォーラム
所属議員一覧(JR連合ホームページ)

当日ご出席いただいたメンバー(九州エリア)

衆/参	議員名	出席者
衆	稲富 修二	伊藤 万里子秘書
衆	堤 かなめ	黛 典子秘書
衆	城井 崇	襲田 憲右秘書
衆	大串 博志	及川 昭広秘書
衆	西岡 秀子	清水 勝彦顧問
衆	吉良 州司	尾崎 美加秘書
衆	渡辺 創	荻山 明美秘書
衆	野間 健	久本 芳孝秘書
参	野田 国義	大谷 正人秘書
参	古賀 之士	鈴木 加世子秘書

3. 持続可能な地域公共交通をつくるために 

2022年2月『持続可能な地域公共交通をつくるJR連合政策提言』策定

◆JR地方路線の現状と課題
人口減少や少子高齢化、高速道路網の拡大…大量輸送に適した鉄道の特性を發揮できない

- ⇒ 利用者が大きく減少 & コロナ禍が拍車をかける
- ⇒ 採算事業の利益を不採算路線に充当する「内部補助」が限界に
- ※ 諸外国では鉄道の持つ公共的な面が重要視され、様々な税が扱われるもの…日本では公的資金の投入は基本的になく、赤字でも事業者負担により維持されてきた
- ⇒ 多頻度化・大規模化する自然災害によって被災…長期間の運休や駅・路線の廃止

◆地域にふさわしい公共交通のあり方とは

- ① 地域公共交通を維持・活性化するために、関係主体(JR、地域、国)に求められること
 - ⇒ JR: 自ら積極的に歩み寄る姿勢を持つ(ニーズの把握、データの積極的な開示)
 - 地域: 住民や利用者のニーズを客観的に把握し、交通政策に反映
 - 「まちづくり」と「公共交通の再生」をセットに中長期的な展望から議論を推進
 - 市町村をまたがる広域での検討 など
 - 国: 地方の取り組みを後押しできるような法整備や財源確保、権限移譲を推進
- ② 「鉄道特性の發揮の可否」を踏まえた、地域に望ましい公共交通の選択
 - ・存続させる場合 公的支援との組み合わせ、ポリシーミックスの実現、関係主体による議論
 - ・存続が困難な場合 利用者の目的・使い方の整理、他のモードやスキームの選択、持続可能な交通体系の再構築

5

JR連合により政策提言の説明が行われた



秘書勉強会全体の様子



九州エリアに分かれて九州の課題を説明